

## 2020年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年10月23日

上場会社名 東邦レマック株式会社  
 コード番号 7422 URL <http://www.toho-lamac.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 笠井 庄治  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長兼総務部部长 (氏名) 高野 裕一  
 四半期報告書提出予定日 2020年10月30日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 TEL 03-3832-0132

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年12月期第3四半期の業績(2019年12月21日～2020年9月20日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	4,780	30.1	265		173		162	
2019年12月期第3四半期	6,841	10.8	234		77		82	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	319.88	
2019年12月期第3四半期	162.16	

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	6,835	4,855	71.0
2019年12月期	7,532	5,215	69.2

(参考)自己資本 2020年12月期第3四半期 4,855百万円 2019年12月期 5,215百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期		60.00		60.00	120.00
2020年12月期		57.00			
2020年12月期(予想)				57.00	114.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年12月期の業績予想(2019年12月21日～2020年12月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,636	28.3	274		202		191		375.87

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年12月期3Q	512,070 株	2019年12月期	512,070 株
期末自己株式数	2020年12月期3Q	2,916 株	2019年12月期	2,866 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年12月期3Q	509,169 株	2019年12月期3Q	509,204 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本決算に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予測の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(追加情報) .....	7
3. その他 .....	8
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により景気の急速な悪化が進んでおり、段階的な社会経済活動の再開は進んでいるものの、企業収益や個人消費が元の水準まで回復するには長期間を要することが予想され、厳しい状況で推移いたしました。また海外に目を向けても新型コロナウイルス感染症による影響は大きく、経済・金融・スポーツ等にも波及しており、コロナウイルス感染症の世界的収束が待ち望まれています。今後の先行きにつきましては、様々な懸念材料が存在しており、依然として不透明な状況が続くと思われま

す。靴流通業界におきましては、緊急事態宣言発令以降、需要増の続いている食料品を中心とした生活必需品とは異なり、「巣ごもり消費」等の影響、買い控えの対象商品群に属していることから、全体的に厳しい状況が続いております。そのような中でも、緊急事態宣言解除後に開始されたGoToキャンペーン等の影響によりスニーカー・ウォーキングシューズの需要は増えており、逆に仕事等で使用する紳士靴や婦人靴については低調に推移いたしました。またEコマース分野の充実によりリアル店舗の売上が相対的に落ち込んでいること、消費者の消費パターンの多様化、節約志向の定着化により、取り巻く環境が非常に厳しいものとなっております。

このような状況の中で、当社は取り扱いの全分野が苦戦を強いられ、売上高は前年同四半期を下回りました。売上総利益につきましては売上不足の影響もあり、前年同四半期を下回りました。また営業損益につきましては継続して取り組んでいる販売費及び一般管理費の削減はできているものの前年同四半期を下回りました。

経常損益につきましては、保険解約返戻金が大きく減少したことなどにより、前年同四半期を下回り、四半期純損益につきましても特別利益を15百万円計上したものの、経常損失が大幅に増加したことにより、前年同四半期を下回りました。

その結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高47億80百万円(前年同四半期比30.1%減)、売上総利益12億34百万円(前年同四半期比23.5%減)、営業損失2億65百万円(前年同四半期は営業損失2億34百万円)、経常損失1億73百万円(前年同四半期は経常損失77百万円)となり、四半期純損失は1億62百万円(前年同四半期は四半期純損失82百万円)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ① 資産、負債及び純資産の状況

## (資産)

流動資産は、前事業年度末に比べ1億91百万円減少し、44億55百万円となりました。これは、主に現金及び預金が増加した一方で、受取手形及び売掛金が1億15百万円、電子記録債権が3億89百万円及び商品が1億11百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ5億5百万円減少し、23億79百万円となりました。これは、主に投資その他の資産の投資有価証券が2億1百万円及びその他(定期預金)が2億52百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は前事業年度末に比べ6億97百万円減少し、68億35百万円となりました。

## (負債)

流動負債は、前事業年度末に比べ5億1百万円減少し、13億93百万円となりました。これは、主に支払手形及び買掛金が2億93百万円増加した一方で、短期借入金及びその他(従業員預り金)が2億円それぞれ減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ1億64百万円増加し、5億87百万円となりました。これは、主にその他(繰延税金負債)が25百万円減少した一方で、長期借入金が増加したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は前事業年度末に比べ3億36百万円減少し、19億80百万円となりました。

## (純資産)

純資産合計は、前事業年度末に比べ3億60百万円減少し、48億55百万円となりました。これは、主に利益剰余金が増加した一方で、有価証券評価差額金が1億34百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績につきまして、2020年7月21日発表の「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」により修正しております。

また新型コロナウイルス感染症拡大による業績への更なる影響が出た場合には、速やかに業績予想の修正を開示する予定であります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月20日)	当第3四半期会計期間 (2020年9月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	994,579	1,400,921
受取手形及び売掛金	1,413,400	1,298,270
電子記録債権	1,176,794	787,175
商品	1,026,233	914,827
その他	44,889	68,518
貸倒引当金	△8,980	△13,972
流動資産合計	4,646,917	4,455,741
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	232,252	219,603
土地	726,871	710,490
その他(純額)	13,825	9,605
有形固定資産合計	972,950	939,700
無形固定資産		
	23,650	14,411
投資その他の資産		
投資有価証券	914,317	712,717
投資不動産(純額)	659,217	657,651
その他	374,708	123,574
貸倒引当金	△59,009	△68,195
投資その他の資産合計	1,889,233	1,425,747
固定資産合計	2,885,834	2,379,858
資産合計	7,532,752	6,835,600
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	261,646	555,184
短期借入金	1,120,000	600,000
未払法人税等	17,936	2,842
賞与引当金	21,935	37,650
その他	473,493	197,617
流動負債合計	1,895,011	1,393,294
固定負債		
長期借入金	-	200,000
退職給付引当金	228,903	221,774
役員退職慰労引当金	69,990	69,272
その他	123,414	96,033
固定負債合計	422,308	587,080
負債合計	2,317,319	1,980,374

(単位:千円)

	前事業年度 (2019年12月20日)	当第3四半期会計期間 (2020年9月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	961,720	961,720
資本剰余金	838,440	838,440
利益剰余金	3,374,254	3,151,805
自己株式	△15,278	△15,439
株主資本合計	5,159,135	4,936,525
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	55,923	△79,026
繰延ヘッジ損益	373	△2,273
評価・換算差額等合計	56,296	△81,299
純資産合計	5,215,432	4,855,225
負債純資産合計	7,532,752	6,835,600

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自2018年12月21日 至2019年9月20日)	当第3四半期累計期間 (自2019年12月21日 至2020年9月20日)
売上高	6,841,421	4,780,714
売上原価	5,228,009	3,546,397
売上総利益	1,613,411	1,234,317
販売費及び一般管理費	1,847,930	1,500,081
営業損失(△)	△234,519	△265,764
営業外収益		
受取利息	5,561	1,802
受取配当金	11,118	11,560
受取賃貸料	58,633	60,590
為替差益	2,257	439
保険解約返戻金	99,620	2,378
投資事業組合運用益	279	22,830
その他	6,364	19,044
営業外収益合計	183,835	118,646
営業外費用		
支払利息	2,418	1,538
手形売却損	746	237
賃貸費用	23,266	23,585
その他	370	1,311
営業外費用合計	26,802	26,672
経常損失(△)	△77,486	△173,790
特別利益		
固定資産売却益	-	15,229
関係会社株式売却益	-	0
特別利益合計	-	15,229
特別損失		
固定資産除却損	45	0
投資有価証券売却損	485	-
投資有価証券評価損	-	1,576
特別退職金	2,876	-
特別損失合計	3,406	1,576
税引前四半期純損失(△)	△80,892	△160,137
法人税、住民税及び事業税	3,578	2,737
法人税等調整額	△1,900	-
法人税等合計	1,678	2,737
四半期純損失(△)	△82,571	△162,875

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症（以下、本感染症）の影響に関して、一時生産を停止しておりました中国生産工場も順次再開をし、主要取引先各社におきましても休業からの再開となり、販売体制は徐々に回復をしております。また当第3 四半期累計期間において、売上原価の改善による総利益率の前年比増等、事業年度末に向けても同水準の確保に努めてまいります。

しかしながら、本感染症は経済、企業活動に広範な影響を与える事象であり、また、今後の広がり方や収束時期等を予想することは困難なことから、当社は外部の情報源に基づく情報等を踏まえて、今後、年内は当該影響が継続するとの仮定のもと、足下の水準を勘案して継続企業の前提に関する評価を行っております。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は前事業年度までにおいて3期連続の営業損失、2期連続で当期純損失を計上し、当第3四半期累計期間においても営業損失2億65百万円、経常損失1億73百万円及び四半期純損失1億62百万円を計上していることから継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

このような状況のもと、当社では、当該状況を解消すべく「レマックリバイバルプラン」を立て、中期3ヵ年計画の2年目での営業損益の黒字化を目標とし、第1四半期より以下のプランによる取り組みを継続して進めております。

- a. ライフスタイルのカジュアル化やファッションのダイバーシティ化に対応するオリジナルブランドの絞り込みと強化を行う
- b. 受発注システムを刷新し、物流の構造改革を推進し、商品回転率の向上と物流コストの削減を行う
- c. 品質管理体制の見直しを行い、さらにローカル化することで精度の向上と効率化を図る
- d. 働き方改革による一人当たりの生産性向上のために異業種へのアプローチを強化し、新たな市場の創造・開拓などへ管理職を始めとする全社員の意識改革を行う

当第3四半期累計期間において、全世界に拡大している新型コロナウイルス感染症により、商品の生産を始め、物流、販売等への影響が顕在化しております。中国の生産工場では一時生産を停止しておりましたが、現在の生産体制におきましては、概ね正常な状態に戻っております。しかしながら感染症拡大への警戒などにより、消費マインドの低下や消費行動パターンに変化がみられ、靴市場の売上は減少傾向にあります。当社においても新規及び追加の受注減少により、売上が計画を下回っております。

但し、資金面においては、当社は新型コロナウイルスの影響が年内続くものと想定し、足下の水準を勘案して資金計画の見直しを行い、その結果、現金及び預金の残高と短期間に資金化可能な債権の残高にて、当四半期末日後1年間の運転資金が十分に賄え、その他にも売却可能な資産も充分ある状況であり、また取引銀行から必要な融資枠を確保できていることから、資金面においても支障はないものと判断しております。

上記施策により計画上、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況を解消できると考えており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。